

4.14千葉支社に340名が怒りのデモ！



1988.4.19
No.2800

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二七二・〇七

四月十四日、中央公園は、当局・松崎鉄道労連の卑劣、不法な処分・配転に怒りを燃やす組合員二四二名によって熱く包みこまれた。仕事の疲れを吹きとばす勢いで抗議のデモを貫徹し、ストライキを含むあらゆる戦術を行使し、反撃に起つことをガッチリと確認した。

中野委員長、怒りをこめ反撃を宣言！

「今回の処分と強制配転の特徴は、職場での当り前の論争をとらえ、一方の労組（鉄道労連）のかたを持ち動労千葉組合員に処分を加えるとか、当局と革マルが一体となって不当な組合介入・脱退工作に出ている。職場では命令と服従の強制といった暗雲がたちこめている。こうした不法・不当を放置するならば、やがてはただ働きの強制をはじめトンデモない職場になってしまう。

敵は動労千葉・国労破壊に失敗し、充滿する怒りに恐れおののいている。そこで、今回、あせりに満ちて『決着』を求めてきた。われわれは耐えに耐えてじつて見据えてきた。だが、『三分で飯を食え』とか安全も保安も無視する横暴にもはや座して沈黙していることは出来ない。腹をすえて反撃に起つ。

スト権という絶好の武器がある。彼らが不法・不当を断念するまでねばり強く闘いぬこう」と熱烈に訴えた。

北原氏（三里塚）、動労水戸、国労の仲間から熱い連帯のあいさつ！

北原氏は「皆さんが厳しい中で闘いぬいでいる。われわれも二期決戦のただ中で奮闘中です。八八こそ、労働者・人民の未来を決する年といえる、権力・体制側に屈せず共に闘おう」と述べられた。

動労水戸辻川委員長は「本日、年休をとって仲間とかけつけた。本格的組織破壊攻撃粉碎のために、あらゆる支援・連帯をつくりだす」と熱くアピール。

国労共闘・吉野代表は「デタラメな攻撃に断じて負けない。この間、全国各地でストライキに決起している。さらに連帯を強め実力ストを闘う」。

ストライキの先頭に起つ！ 被処分者・強制配転の仲間が決意表明

集会の盛り上がる中、敵の攻撃のやもてに立つて闘う仲間が壇上に上り、代表して滝口幕張支部長、外山木更津書記長、長田勝浦書記長、吉野津

田沼書記長から決意表明を受けた。それぞれから「ストライキの先頭にたつ」「全国の怒りを反撃に転ずるため、ここで闘おう」「この間の連日闘争を助走として本格的反撃に」「活動家隔離としての『売店』を許さない」等々、発言のたびごとに大きな拍手がまき起り、全体に「ヨーン、やるぞ！」という気合いが満ちた。

又、区長に異議申し立てを行い質問をしたことが「命令に従わない」として、出勤停止等々の重処分をうけた仲間を代表した佐藤（本部執行委員）・永島（青年部書記長）両氏から「現場の仲間と一体となって、一波、二波のストを闘いぬいた底力に確信をもって反撃に起つ」という発言をうけた。

その後、銚子の鎌形さんをはじめ、関（新小岩）・笹生（館山）両支部長、林（清算事業団代表）杉本青年部長から次々と熱い決意が述べられ、全発言者の決意を受けて布施書記長が、当面の方針を提起した。

臨大（四・二九）、職場討議を通し スト体制を構築しよう

「本日の四・一四緊急行動をもって反撃に転ずる。四・二九臨大、職場討議を通し、ストライキを含むあらゆる戦術で、当局・鉄道労連を追いこもう。一致団結し正義の闘いに起とう」と明確な提起が大拍手の中で確認された。



JR各社は4月18日

次のように「新賃金の回答を行なってきた。」

★貨物	定昇 2.2%	ペ下 1.9%
★東日本	定昇 2.2%	ペ下 1.9%